

卯月 清見舎

あま中村連

魯水

花のせのむれさくも花はさき

中尾がしき 郎公

新臺より送る養分川邊で

畑畑のやをし 煙草をた

大澤より酒本はは上は年

濁り 吹く 渡む 村の 川



志梁

魯三

海江

十前

主席

5
6590
24



ちりのお耳のつゆ 揚子月次

貫三

新編を海を以て中と見し

自仙

埋木の橋とて氣の若き御舟り

池水

喋る鳥とて世にわらう呪

水

る神を入るぬ暇なき御舟り

栗

名古座の城に雲のさかすま

傍

吹風のさか風海にうるる舟

池

残るの神に 辰子遊む丸

に

埋木の橋を以て海を以て

栗

お上の天朝の御舟り

三

はらふとて神を以て海を以て

池

さしとて神を以て海を以て

傍

与ふりし似たの程よ候も水
 乾て等々の川平深
 同きははほし由は浅水も
 経済程よ目録入也
 ありて舟にたつて候の程
 市もよりいふ程の事
 江 傍 水 比 梁 江

小鯨とくたねなる程上押の意
 石の汁同を磨く候を
 御らるの候とありて候
 右々候らる程と流し
 雨もれとあり候今也
 ありて候とあり候入
 江 比 水 比 傍

初海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり

比に 海あり 比に 海あり

記録あり

海ありてのころと海あり

海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり

海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり
海ありてのころと海あり

時よは紙

因

因移れらるる時よは紙

其

其

其よは紙

其

横

横よは紙

此

部

部よは紙



部

部よは紙

部

部よは紙

部

部よは紙

自

餅

唐子よと餅は流るんもの鯉

十餅

菓子

菓子持て積む水やゆば

菓子

水

らふつよ活きとる初肥魚

海魚

煙

初のはのー畑のー鯉

魚

晴

晴るもの境をとり杜宇

鳥水

月

子規啼や夕月も自説

十餅

祀

祀祭しやまはるる男説

自他

朝

朝からけり宗後水なり題

志

雨

雨さぬ一夏の山々もや 杜鵑 浅き江

山

一帯の山一帯の山 勸農歌 鳥之

初松久司歌

茶

茶中へ車はなほかゆ

特 別

A5

6590

84